

開発・導入技術の事業化に向け「新規事業推進室」を設置

東亜グラウト工業株式会社

東亜グラウト工業(株) (本社：東京都新宿区四谷2-10-3, 会長：大岡伸吉氏, URL: <http://www.toa-g.co.jp>) は、自社で独自に研究開発を進めている技術や海外から導入を進めている技術、また、発注者および共同開発者と進めている新しい研究開発テーマの事業化を早期に図ることを目的として、この程、「新規事業推進室 (室長：大野信之氏, 電話03-3355-4457)」を新しく設置すると発表した。

同社は、1958年 (昭和33年) 東京都台東区に資本金125万円で設立。創立当初は東亜式グラウト工法として、セメントの注入や空気吹きつけによる各種建造物の補強や漏水防止、築堤隧における軟弱な地山の硬化、道路路盤の補強修理、さらに薬液注入による軟弱地盤の強化、農地の土壤改良などを主力の事業として活動してきた。中でも、東京の地下鉄における構内の漏水防止工事の歴史は古く、多くの実績を持ち、我々の日常の足を守ってくれている。

我が国のインフラは、戦後の急激な経済成長期に施工された物件が多く、その多くが間もなく一大「更新・改築の時代」を迎えようとしている。こうした時期、地下鉄や共同溝の維持管理・補修工事の経験を礎に、下水道の老朽化に伴う管路の補修・更新技術の市場にいち早く着手し、「スナップロック工法」「光硬化工法」を相次いで開発、全国普及の実績を通じ、現在の営業基盤を築いてきた貴重な経験を生かし、今後の企業戦略として研究開発テーマの市場化のスピードアップを図り事業拡大に繋げようというもの。

下水道分野の新市場開拓に常にリーダーシップをとってきた同社の新しい取り組みが、更に業界のニューウェーブとなることが期待される。

同社が現在推進中の新しい開発案件のうち、この度、紹介された非開削関連の研究開発テーマと概要は以下の通り。



◀研究開発中の技術について紹介する大岡会長



▶新規事業推進室長に就任した大野信之氏

1. 被膜鞘管 (ファイン) 工法

農下水管路向けの耐震・更生工法。専用の熱可塑性樹脂管を挿入し更生するもので、既設管との空隙には不織布等 (被膜材) で中込めする。裏込め作業が不要で小口径管でも容易に施工できる。

2. スマートボール漏水検知工法

カナダのPure Technologies社が開発した漏水検知システム。音波センサーと超音波パルス発信機能を備えるスマートボールを管内に単独でフリーに転がし、水流に従い移動させながら漏水音波を感知・記録。地上に設置した受信装置で漏水箇所を特定するシステム。

3. アイスピグ洗浄工法

英国ブリストル大学で開発された工法で、シャーベット状の氷を管内に挿入し、管内壁との摩擦を利用して不着物を除去する無公害管内洗浄工法。

4. レンブラント工法

ガラス繊維に熱可塑性樹脂を含浸させ成型した、熱や化学物質による材質の変化が少ない管更生材を用いた管更生工法。

(平成21年11月4日、記者発表会：事務局取材)